

お知らせ

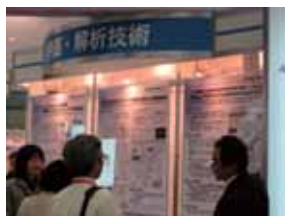
産総研オープンラボ出展報告

昨年に引き続き平成21年10月15日～16日の両日、つくばセンターで開催された「産総研オープンラボ」に当研究センターは研究成果の紹介および次年度に予定している人材養成コンソーシアムに関する2点のポスターを展示しました。研究センターの一丸となつての取り組みにより、ご来場の多数の企業の経営者・研究者・技術者や大学・公的研究機関の方々にご理解いただけたものと思います。今後とも、産総研は産学官連携活動を積極的に推進してまいりますので、ご支援の程宜しくお願いいたします。



バイオジャパン出展報告

Bio Japan2009は「バイオ再生元年・新たな飛翔をはじめたバイオ産業」を題目に掲げ、健康、環境(グリーンバイオ)、食糧(機能性食品・GMO)、クラスター&バイオベンチャーの4つを主軸テーマに設定し、10月7日～9日の3日間パシフィコ横浜で開催されました。産総研は「幹細胞利用関連技術の研究紹介」をメインテーマとしてポスターなどの展示を行いました。CBRCは産総研ブース内に「iPS細胞など新型幹細胞の個性を遺伝子発現データから探るCELLPEDIA/CellMontageシステム」、「幹細胞多分化能関連分子ネットワークの構造変化解明のための基盤技術開発」と題した2点のポスターを出展しました。



外部資金取得について

・JST 研究成果最適展開支援事業：
「クラウドコンピューティングによるタンパク質間相互作用解析プラットフォームの開発」(福井)

成果紹介

- 【論文】 ● Shimizu, K., Toh, H., "Interaction between intrinsically disordered proteins frequently occurs in a human protein-protein interaction network", *J. Mol. Biol.*, **392**(5), pp.1253-1265(2009).
● Koga N., Kameda T., Okazaki K, Takada S., "Paddling mechanism for the substrate translocation by AAA+ motor revealed by multiscale molecular simulations", *Proc. Natl. Acad. Sci.*, **106**(43), pp.18237-18242(2009).
● Tashiro, T., Nakagawa, R., Hirokawa, T., Inoue, S., Watarai, H., Taniguchi, M., Mori, K., "RCAI-37, 56, 59, 60, 92, 101, and 102, cyclitol and carbasugar analogs of KRN7000; their synthesis and bioactivity for mouse lymphocytes to produce Th1-biased cytokines.", *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, **17**, pp. 6360-6373(2009).
● Gromiha, M.M., "Revisiting "reverse hydrophobic effect": Applicable only to coil mutations at the surface.", *Biopolymers*, **97**(7), pp.591-599(2009).
● Tokumoto, Y., Horimoto, K., Miyake, J., "TRAIL inhibited the cyclic AMP responsible element mediated gene expression.", *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **381**, pp.533-536(2009).

+ 編集後記 +

木枯らしが吹く頃になると真っ赤な実をつけ始める南天。センターの近くにある生垣にも大粒の実をつける南天がある。花言葉では「福をなす木」として昔から親しまれている。どうか今年も良い年でありますように…。

第9回ライフサイエンス分野別融合会議・他の開催予告

産総研ライフサイエンス関連分野と産技連ライフサイエンス部会・バイオテクノロジー分科会の合同会議を開催致します。本発表会は産総研および公設試験研究機関の研究成果を広く公開し、産総研内外の研究者の相互交流、融合化を促進する事を目的に、企業、大学、関連団体等外部へも参加を呼びかけ、開かれた会として開催するものです。尚、CBRCからは多数の研究者がポスターを出展する予定です。

日時：平成22年2月4日(木)～2月5日(金)

場所：独立行政法人産業技術総合研究所

つくばセンター共用講堂(茨城県つくば市東1-1-1)

多数のご参加をお待ちしております。

詳しくはこちらのURLをご覧ください。

<http://unit.aist.go.jp/collab-pro/ci/wholesgk/event/lb-bt.html>

CAMDA 2009にて好成績

10月5日～6日にシカゴで行われた大量遺伝子発現データ解析コンテストCAMDA 2009(Critical Assessment of Massive Data Analysis)において、細胞情報設計チームのJF.K.Pessiot、千葉啓和、百石弘澄、藤渕航らがギガシークエンサーデータからの転写因子結合モチーフ解析を行いました。この研究成果は、審査員から高い評価を得て口頭発表に選拔され、JF.K.Pessiot産総研特別研究員が登壇発表を行うなど、好成績を収めました。

亀田研究員の論文が新聞で紹介

創薬分子設計チームの亀田倫史研究員の論文(Koga N et al, Proc. Natl. Aca. Sci., 2009. 詳しくは下の成果紹介を参照のこと)が、京都新聞で紹介されました(不要なタンパク質"オール"で引き込む、10月18日付)。

生命情報科学技術者養成コース便り

・バイオインフォマティクス速習コースⅡ10月1日～11月27日
速習コースⅡは計算機実習をメインにしたコースで、単なるツール紹介ではない、研究の現場を模した実践的解析パイプラインを提案する形の実習が好評を博しています。今年は35名の方が熱心に受講されました。

・バイオインフォマティクス速習コースⅠe
初開講のe-ラーニングコースの第1期(6月15日～10月15日)は、47名の方が修了試験に合格されましたので修了認定証書をお送りしました。現在、第2期(11月1日～2月26日)が開講中です。

研究員紹介

- 1 趣味や自己紹介など
- 2 研究内容や抱負

大澤 文 Fumi OSAWA

細胞機能設計チーム
テクニカルスタッフ

- 1 写真を撮るのが好きです。10年以上フィルムの一眼レフを使っていますが、そろそろデジカメにするか悩み中です。
- 2 今までは酵母の研究を行っていましたが、CBRCに来てからは、酵素の触媒機能に関するデータベースの作成を行っています。



CBRCニューズレター第30号(2010年1月15日発行) 禁無断転載

[編集発行]

技術を社会へ
Integration for Innovation



独立行政法人

産業技術総合研究所 生命情報工学研究センター

〒135-0064 東京都江東区青海2-4-7 産総研臨海副都心センター別館 バイオ・IT融合研究棟

TEL:03-3599-8080(代表) FAX:03-3599-8081 E-MAIL:cbrc2-pr@m.aist.go.jp <http://www.cbrc.jp/>